

13018 教育統計学 II Educational Statistics II		1年次～ 後期 2単位	
担当者	土井 努	履修可能学科	E Pe Pc C W F
		関連資格	
サブタイトル	実用的な統計手法		
授業内容 ・ ねらい	<p>後期は2つのグループ間に見られる、ある指標の差は有意であるかの検定、および互いに関連性を持つデータについて、相関と回帰などを扱います。授業形式がレポート作成を中心とする点は、前期と同じです。</p> <p>検定、相関、回帰は、統計手法の中でも特に実用性が高いので、便利なソフトが多数供給されています。ここではデータを入力すれば簡単に結果を得ることができるだけに、結果を解釈する基礎知識が必要となります。</p> <p>分析結果の解釈が出来るよう、基礎を会得するのがインスタント的な現代における、この授業の目的と言う事もできます。</p>		
授業計画	1. グループの差…例題を提示、直感で考える 2. // …有意差の計算 3. // …検定の基礎 4. // …さいころ実験 5. // …各自例題を作成 6. 相関 …実データの相関係数を議論 7. // …誤解されやすい点の注意	8. // 9. // 10. // 11. // 12. 回帰 13. // 14. // 15. //	…Excellによる散布図の作成 …擬相関と強すぎる相関 …各自の相関例作成 …各自の相関分析に助言 …分析例による導入 …結果の解釈 …課題を提示 …課題分析への助言
教科書 参考書	配布プリントは頻繁に参照するので、教科書として必ずファイルしてください。		
評価方法	レポート、出席率を含む授業姿勢。レポートは達成度、努力度、独創性の3項目について、A B Cの3段階評価。		
事前準備学習 履修条件等	Excelを頻繁に使用するので、表の加工、関数、作図についての基礎を会得しておく必要があります。		